

## 宮城県 JA栗っこ資産管理セミナー『農を活かした町おこし・村おこし』について講演

宮城県栗原市は水田稲作が中心の日本の米どころとして有名だが、東日本大震災で震度が最も高かった地域でもある。

農家の高齢化や人口減少が進む中、都市と農村の交流による地域の活性化が課題となっているが、特に新幹線くりこま高原駅周辺地域ではそのポテンシャルを活かしたまちづくりが求められている。

こうした中、平成25年2月17日、地元の栗っこ農業協同組合（JA栗っこ）の資産管理部会の主催により『農を活かした町おこし・村おこし』をテーマにした講演会が開催された。

当日は当センターの佐藤理事が全国の具体的な事例を踏まえ講演を行い、好評のうちに終了した。

地方都市においても、農を活かしたまちづくりの取組が進み、地域課題解決や元気再生につながることを期待される。



熱心に講演を聞き入る参加者の皆さん